

文部科学省 令和6年度

ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業

(社会的な要請に対応できる看護師の養成)



Project KPUM

重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト

成果報告書



京都府公立大学法人 京都府立医科大学
看護実践キャリア開発センター

目次

I. 事業概要	1
II. 令和 6 年度実施報告	7
III. 事業評価総括	27

I . 事業概要

1. 事業実施の背景

近年、我が国においては、新型コロナウイルス感染症を契機に少子高齢化の進展による医療ニーズの多様化、地域医療の維持についての問題が顕在化した。看護師に求められる能力や看護を提供する場は多様化し、社会的な要請に対応できる看護師の養成は急務である。このような背景をもとに、本事業は令和6年度文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業（社会的な要請に対応できる看護師の養成）」に採択された。

京都府立医科大学は、1872年の設立以降、医療・医学を担う人材育成と高度先端医療を牽引する役割をもつ大学である。附属病院は、地域における高度急性期医療基幹病院としての役割に加え、2024年度には救命救急センターの新設、北部医療センターとの連携のもとドクターヘリ拠点病院としての整備が計画され、京都府内の救急・災害医療の充実を図ることが責務となっている。附属病院看護部では、三次救急医療機関としてクリティカルケア看護実践能力向上を目指した看護師教育プログラムの構築も行っている。また、2019年度には特定行為研修指定研修機関の指定を受け、外科術後病棟管理領域コース、術中麻酔管理領域コース、新たに集中治療領域コースの3つの研修を開講し、22名の修了生を輩出している。

今回、文部科学省新規事業募集の通知を受け、救急医療提供体制の充実・強化を図っているさなかである本学は、①救命救急センターの新設、②クリティカルケア看護師養成プログラムの再構築、③特定行為研修における集中治療領域コースの新設、④京都府で唯一のPICUを擁する医療機関等、複数の条件が合致したため申請し、採択に至った。長年にわたり、京都府内のジェネラリストナース教育に携わってきた看護実践キャリア開発センターが、本事業の事務局として管理運営を担い、重症患者に対応できるジェネラリストナース養成をめざす。本事業により、京都府下で急性期医療に従事する看護師のレベルアップと施設間連携が期待でき、新興感染症の流行、大規模自然災害、超高齢化・人口急減による急性期医療ニーズの変化に対応することが可能となる。また、京都府で唯一PICUを擁する医療機関として、小児救急医療・看護の発展に大きく寄与することができる。

2. 全体構想

本事業は、京都府立医科大学、附属病院、看護実践キャリア開発センターが一体となり、高度なクリティカルケアの看護実践能力を有する看護師養成およびネットワーク構築を目指すプログラムである。

【目的】

- ①高度なクリティカルケア実践能力をもち、医療ひっ迫時に派遣要請に対応できる看護師を養成する
- ②自施設のクリティカルケアにおいて指導的役割を担い、看護の質向上に寄与する看護師を養成する
- ③プロジェクトを通じて京都府内におけるクリティカルケア領域の看護師間・組織間のネットワークを構築する
- ④認定看護師、専門看護師、特定行為看護師につながるよう受講生のキャリア形成を支援する

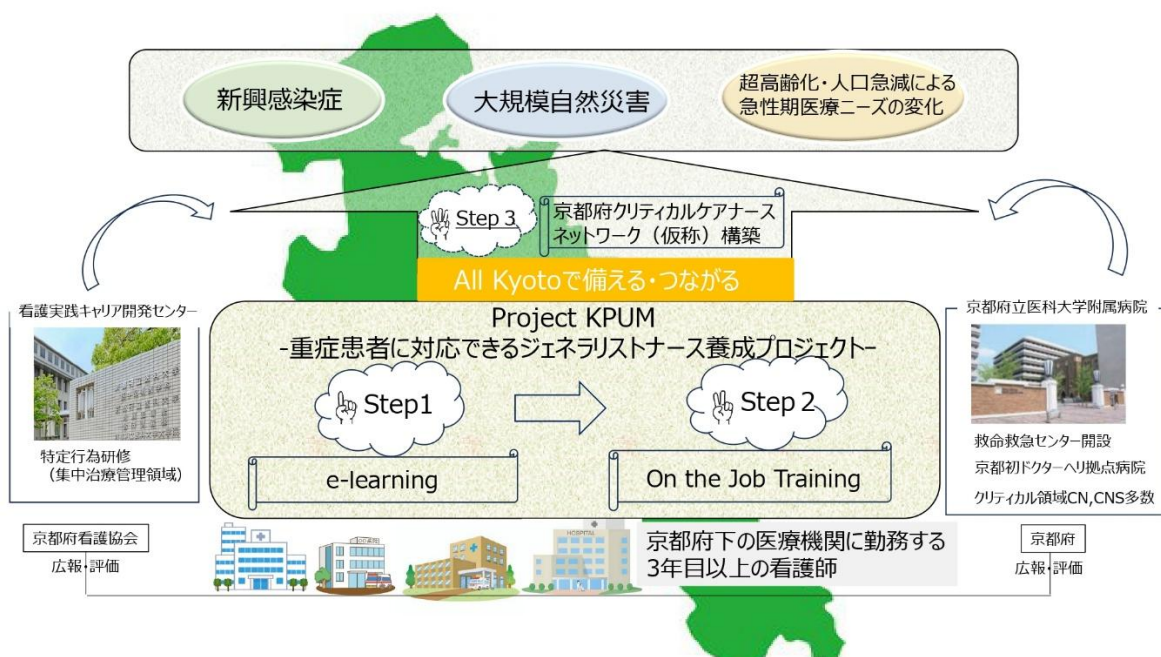
【対象】 京都府内の医療機関に勤務する臨床経験3年以上の看護師

【内容】成人系と小児系のクリティカルケアを学ぶコースを設定する。

Step1：e-learning と講義・演習

Step2：On the Job Training（以下 OJT）

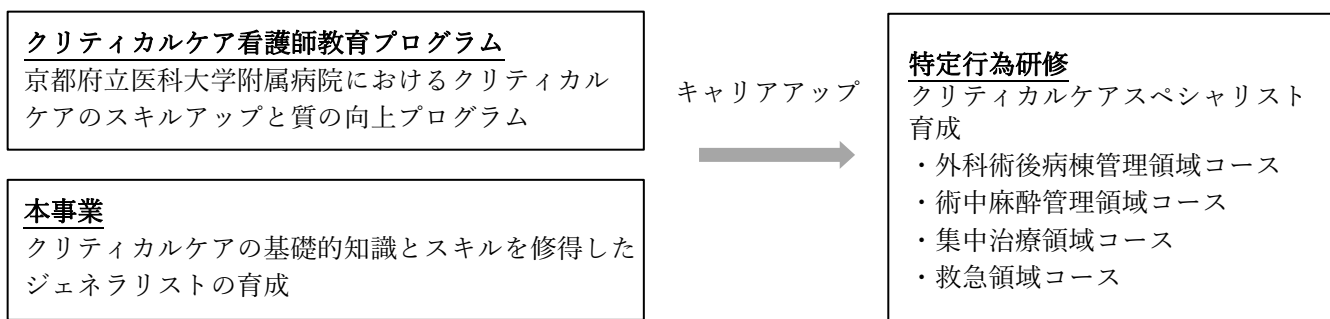
Step3：研修修了後、京都府クリティカルケアナースネットワーク（仮称）の構築、情報交換や後進育成にあたる



Project KPUM 全体構想図

3. 特定行為研修との位置付け

本事業は、本学附属病院のクリティカルケア看護師教育プログラムとコラボレーションを図り、地域のクリティカルケア支援体制の強化に貢献できるジェネラリスト看護師育成プログラムとして位置づける。また、当プログラムの受講を通して特定行為看護師等スペシャリストへのキャリアアップにつなげる。



4. 養成した人材の活躍に係る構想

1) 個人の实践能力向上と教育的役割

自施設の病棟で、患者の急変や重症化に自信をもって対応できるようになることを目指す。心電図モニターの読解や不整脈出現時の対応と看護、人工呼吸器のメカニズムの理解と人工呼吸器装着中のケア、急変時の二次救命処置（気管内挿管の介助や電氣的除細動の介助）ができ、後輩の指導にあたることができる。

2) 京都府クリティカルケアナースネットワーク（仮称）の構築

当プログラムでは、個人の知識・技術を向上させるのみならず、他施設での実習、施設間留学を経験し、自施設や自身の看護を客観的に内省すること、施設内・施設間での看護師間連携を強化することを目指す。特に、現代は小児集中治療領域に対応できる看護師の不足が課題であり、人的リソースの活用のため、施設を越えた繋がりへのニーズは高い。ネットワークでは定期的な勉強会や研修会、情報交換会を開き、顔の見える関係づくりを形成する。クリティカルケア看護師ネットワークは、大規模自然災害時や新興感染症流行時の緊急派遣要請に大きな効果を発揮することが期待できる。

3) 京都府立医科大学における看護体制の強化

本学では、クリティカルケア領域のスペシャリスト（認定看護師、専門看護師、特定行為看護師）が多数活動し、看護基礎教育における領域別臨地実習指導や、自施設の看護師教育（教育ラダーに則ったプログラムの実施・評価）を行っている。当プログラムにおいて、他施設で勤務するジェネラリスト看護師の教育に携わることで、本学の認定看護師、専門看護師、特定行為看護師の教育力（最新の知識を習得し、自身の実践を内省・言語化し、他者に伝え共有する力）向上を図る。スペシャリストの看護実践能力、教育力の強化は、本学附属病院看護部の教育ラダーに反映され、ジェネラリストのレベルアップに寄与できる。また本学附属病院では、特定行為看護師の修了後研修が終わり本格的な活動を始めるところである。特定行為研修修了者をクリティカル領域スペシャリストナースチームの一員として当プログラムに位置づけることで、院内での認知度を高め、組織横断的な活動を促進することができる。

5. 教育内容

研修期間：1 クール 6 ヶ月（年間 4 月～9 月・10 月～3 月の 2 クール設定）

教育内容とスケジュール

月/ 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R6	4/30 申請〆切		下旬 結果発表		受講生 公募開始	・開講式 ・e-learning	・OJT ・6か月の院内留学 ・附属病院Ns15名 ・期間中に技術演習3項目（二次救命処置、NPPV、MV） ・期間中に手術室見学（1日）とドクターヘリ拠点地見学（1日）					・成果 報告会 ・閉講式 ・次期 受講生 決定
R7/R8	・開講式 ・e-learning		・OJT ・JNAラダーⅡ以上のNs15名 ・京都府下第三次救急医療機関にてOJT ・ICU系2週間、救急系2週間 ・期間中に技術演習3項目 （二次救命処置、NPPV、MV） ・期間中に手術室見学（1日）と ドクターヘリ拠点地見学（1日）			・成果 報告会 ・閉講式 ・次期受講 生決定	・開講式 ・e-learning		・OJT ・JNAラダーⅡ以上のNs15名 ・京都府下第三次救急医療機関にてOJT ・ICU系2週間、救急系2週間 ・期間中に技術演習3項目 （二次救命処置、NPPV、MV） ・期間中に手術室見学（1日）と ドクターヘリ拠点地見学（1日）			・成果 報告会 ・閉講式 ・次期受講 生決定 (R8終了)

6. 運営体制

1) 事業実施体制

氏名	所属・職名
(事業責任者) 毛利 貴子	看護実践キャリア開発センターセンター長 京都府立医科大学医学部看護学科教授
宮田 千春	看護実践キャリア開発センター副センター長 京都府立医科大学医学部看護学科教授
濱崎 一美	看護実践キャリア開発センターセンター員 京都府立医科大学附属病院看護師長、集中ケア認定看護師
越智 幾世	看護実践キャリア開発センター副センター長 京都府立医科大学医学部看護学科講師 がん看護専門看護師、がん化学療法看護認定看護師
田中 真紀	看護実践キャリア開発センター副センター長 京都府立医科大学附属病院看護部教育担当副部長
辻尾 有利子	京都府立医科大学附属病院看護師長、急性・重症患者看護専門看護師
吉岡 さおり	京都府立医科大学医学部看護学科教授、学科長
滝下 幸栄	看護実践キャリア開発センター副センター長 京都府立医科大学医学部看護学科准教授
原田 清美	看護実践キャリア開発センターセンター員 京都府立医科大学医学部看護学科准教授
山田 親代	京都府立医科大学医学部看護学科学内講師、集中ケア認定看護師
長谷川 景三	京都府立医科大学教育支援課課長
舩井 敬一郎	京都府立医科大学教育支援課課長補佐
山口 利香	看護実践キャリア開発センター非常勤職員

2) 連携組織

・病院施設等

京都府内三次救急医療施設（京都第二赤十字病院、宇治徳洲会病院、京都第一赤十字病院、京都医療センター、洛和会音羽病院、京都大学医学部附属病院、市立福知山市民病院、京都府立医科大学附属病院）

3) 評価体制

- ・学校教育法第 109 条第 1 項に定める評価を実施する。「ProjectKPUM 重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト評価委員会」を組織し、当プログラムの内容や成果の評価、検証を行う。その結果は、本事業の報告書や看護実践キャリア開発センター報告書等により、広く公開する。
- ・「ProjectKPUM 重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト評価委員会」は年 2 回開催し、事業の遂行や内容の妥当性、評価について検討し、プログラムの改善につなげる。
- ・「ProjectKPUM 重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト評価委員会」委員は、医学部看護学科長、附属病院看護部長、本学教員、本学以外に所属する学識経験者を指名する。

令和6年度評価委員会構成メンバー

今西美津恵（元京都府看護協会会長）
 中川雅子（元看護学科教授）
 大東貢生（佛教大学社会学部現代社会学科准教授）
 吉岡さおり（医学部看護学科教授、学科長）
 藤本早和子（附属病院副院長兼看護部長）
 倉ヶ市絵美佳（附属北部医療センター副院長兼看護部長）
 毛利貴子（看護実践キャリア開発センターセンター長、医学部看護学科教授）
 宮田千春（看護実践キャリア開発センター副センター長、医学部看護学科教授）
 滝下幸栄（看護実践キャリア開発センター副センター長、医学部看護学科准教授）
 田中真紀（看護実践キャリア開発センター副センター長、附属病院看護部教育担当副部長）
 他実施体制メンバー

7. 年度別実施計画

令和6年度	① 7月	受講生募集開始
	② 9月	開講式、e-learning 開始
	③ 10月	附属病院にて OJT 開始 OJT 期間中に技術演習、手術室見学、ドクターヘリ拠点地見学を実施 次年度受講生募集開始
	④ 3月	OJT 終了、評価委員会、発表会、修了式、報告書作成
令和7年度	① 4月	開講式、e-learning 開始
	② 6月	京都府内三次救急医療機関にて OJT 開始 OJT 期間中に技術演習、手術室見学、ドクターヘリ拠点地見学を実施 後期受講生募集開始
	③ 9月	OJT 終了、発表会、修了式、報告書作成
	④ 10月	開講式、e-learning 開始
	⑤ 12月	京都府内三次救急医療機関にて OJT 開始 OJT 期間中に技術演習、手術室見学、ドクターヘリ拠点地見学を実施 次年度受講生募集開始
	⑥ 3月	OJT 終了、評価委員会、発表会、修了式、報告書作成
令和8年度	① 4月	開講式、e-learning 開始
	② 6月	京都府内三次救急医療機関にて OJT 開始 OJT 期間中に技術演習、手術室見学、ドクターヘリ拠点地見学を実施 後期受講生募集開始
	③ 9月	OJT 終了、発表会、修了式、報告書作成
	④ 10月	開講式、e-learning 開始
	⑤ 12月	京都府内三次救急医療機関にて OJT 開始 OJT 期間中に技術演習、手術室見学、ドクターヘリ拠点地見学を実施 次年度受講生募集開始
	⑥ 3月	OJT 終了、評価委員会、発表会、修了式、報告書作成

Ⅱ．令和 6 年度実施報告

1. プロジェクトの概要

本事業が採択された令和6年度は、京都府立医科大学附属病院の看護師を対象とする教育プログラムを作成、実施した。すでに作成が進められていた「KPUMクリティカルケア看護師養成プログラム」をアドバンスコース、スタンダードコースとし、ベーシックコースを新たに追加して令和6年度Project KPUMとして展開した。当プログラムは、臨床経験3年目以上の看護師の急性期・重症患者への看護実践能力向上を目指し、クリティカルケアの即戦力となる看護師の養成を目指す。

1) コースの概要

臨床経験3年目以上の看護師が個々のクリティカルケアの実践状況に応じて受講できる様に以下の3つのコースを展開した。

ベーシックコース

eラーニングによる学習が中心であり、シミュレーション演習にてクリティカルケアの模擬体験を行い、希望にて講義聴講や施設見学実習に参加できる。

スタンダードコース

eラーニング、講義、演習と、三次救急医療施設での1ヶ月の実習（OJT）を行う。希望にて施設見学実習に参加できる。

アドバンスコース

eラーニング、講義、演習と本学のICUならびにEICUで実習（OJT）を5か月間行う。希望にて施設見学実習に参加できる。

2) 教育目標

ベーシックコース

(1) 到達目標

集中治療に携わる看護師のクリニカルラダー（日本集中治療医学会,2019）

レベルⅠ：集中治療領域の基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する。

(2) 行動目標

- ① 助言を得て集中治療にある患者・家族や状況（場）のニーズをとらえることができる。
- ② 患者の病態生理を理解し、助言を受けながら患者・家族に基礎看護技術が提供できる。
- ③ 関係者から情報収集し、情報共有ができる。
- ④ 患者・家族や周囲の人々の意向を知る。

ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業

Project KPUM

重症患者に対応できる
ジェネラリストナース養成プロジェクト

受講料 無料

2024年度 受講者募集

近年、新型コロナウイルス感染症の流行や大規模自然災害の発生などもあり、様々な場面で急性期・重症患者に対応できる看護師が求められています。そこで、臨床経験3年目以上の看護師さんを対象に、急性期・重症患者への看護実践能力の向上を目指すプログラムを開催します。ICU経験は不問です。どなたでも受講可能ですので、ぜひこの機会にご参加ください

9月17日開講式

必見

Basicコース

- ◆募集人数:15名
- ◆e-learning: 26時間
- ◆スキルラボでの演習: 3回
- ◆見学実習: ICU・手術室・ドクターヘリ等

Standardコース

- ◆e-learning: 40時間
- ◆講義・演習: 6時間
- ◆実習: ICU・ER等 120時間
- ◆見学実習: 手術室・ドクターヘリ等

Advanceコース

～KPUMクリティカルケア看護師養成プログラム～

- ◆e-learning: 18時間
- ◆講義・演習: 13時間
- ◆実習: ICU・ER等 800時間
- ◆見学実習: 手術室・ドクターヘリ等

eラーニングが主体のコースです

- ◆ご自分のペースで学習を進めることが可能です
- ◆見学実習にて日々の看護実践以外からの学びを得ることができます

※詳しくは、看護実践キャリア開発センターHPをご確認ください。

<https://www.kpu-m.ac.jp/j/cdcn/index.html>

受講ご希望の方は
まずは師長さんにご相談ください

①申請 ②承認 ③応募 (Googleフォーム) ④共有

看護実践キャリア開発センター

【問い合わせ先】
京都府立医科大学 看護実践キャリア開発センター
〒602-8566京都市上京区河原町通広小路上る梶井町465
TEL/FAX:075-212-5422 (内線9422)

募集締め切り: 8月30日(金)

スタンダードコース

(1) 到達目標

集中治療に携わる看護師のクリニカルラダー（日本集中治療医学会,2019）

レベルⅡ：集中治療領域の標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する。

(2) 行動目標

- ① 集中治療にある患者・家族や状況（場）のニーズを自らとらえることができる。
- ② 患者・家族や状況（場）に応じた看護を実践し、評価できる。
- ③ 関係者の役割を理解した上で看護チーム内において情報交換ができる。
- ④ 患者・家族や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる。

アドバンスコース

(1) 到達目標

集中治療に携わる看護師のクリニカルラダー（日本集中治療医学会,2019）

レベルⅢ：患者の病態を把握し、患者・家族に合う個別的な看護を実践する。

(2) 行動目標

- ① 集中治療にある患者・家族や状況（場）の特性をふまえたニーズをとらえることができる。
- ② 患者・家族に応じた看護実践の工夫ができ、適切なケアが実践できる。
- ③ 患者・家族やその関係者、多職種と連携ができる。
- ④ 患者・家族や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる。

3) 教育内容

教育内容の区分は、【共通科目】【専門科目】【演習】【実習】の4つの枠組みと選択科目を含む14の科目で構成される。

本プログラムの教育内容を以下に示す。

e-ラーニング：指定のeラーニングツール（全日病 SQUE 看護師特定行為研修、ナーシングスキル）
を各自視聴

講 義：京都府立医科大学にて実務家教員・実務家による対面講義を受講

演 習：京都府立医科大学にて実務家教員・実務家による演習に参加

施設見学実習：ドクターヘリ拠点地病院、京都府立医科大学附属病院（手術室、ICU、PICU、
救急室、EICU）のうち2カ所を選択し見学

O J T：ICU、EICUにて実施(スタンダード：3日間 アドバンスコース：5か月間)

教育課程の概要

※表の中の数字は時間数を示す

科目		受講形式		ベーシック コース		スタンダード コース		アドバンス コース	
		e- ラーニン グ	対面	必修	選択	必修	選択	必修	選択
共通科目	医療安全	3			3		3		3
	医療倫理	3			3		3		3
	臨床推論	9		9		9		9	
	フィジカルアセスメント	6			6		6		6
	フィジカルアセスメント(症状別)	5		5		5		5	
	フィジカルアセスメント(小児)	3	1		4	1	3	1	3
	臨床病態概論	8		8		8		8	
専門科目	集中ケア看護論(アドバンス)	2☆	5		7	7		7	
	救急看護	3	3	4	2	6		6	
	災害看護	1	1	1	1	1	1	1	1
	感染管理	1	1		2	1	1	1	1
演習	シミュレーション演習		3	3		3		3	
実習	施設見学実習:Drヘリ		8		16		8		8
	手術室		8			8		8	
	ICU		8						
	PICU		8						
	救急室・EICU		8						
	施設実習(OJT)スタンダード		24	該当なし		24			
	施設実習(OJT)アドバンス		800					800	

☆講師のオリジナル動画

4) 修了の要件

履修においては、下記の必要出席時間数とレポートによる評価を得るものとする。

- ・講義：時間数の4/5以上の出席（受講）、課題レポートの評価
- ・演習：時間数の4/5以上の出席
- ・実習：時間数の4/5以上の出席、実習レポートの評価

※研修修了者には本学学長より修了証書を発行する。

2. 会議等開催日程

運営会議	
日時：令和6年 4月23日（火）第1回運営会議	9月20日（金）第5回運営会議
5月28日（火）第2回運営会議	11月18日（月）第6回運営会議
6月27日（木）第3回運営会議	12月24日（火）第7回運営会議
7月23日（火）第4回運営会議	令和7年1月31日（金）第8回運営会議
形式：Zoom 参加者：実施体制メンバー、センター運営会議構成メンバー	
R6 年度実習指導者ミーティング	
日時：令和7年 2月19日（水） 11時	形式：Zoom
参加者：京都府内三次救急医療施設看護部長、教育担当副部長、看護師長	
R6 年度担当者連絡会議	
日時：令和7年 2月27日（木） 16時	会場：看護学舎 会議室
参加者：実施体制メンバー	
評価委員会	
日時：令和7年 3月3日（月） 18時～18時半	
形式：ハイブリッド開催	会場：本学看護学舎 大講義室 参加者：評価委員会メンバー

3. 教育プログラム

1) 受講者内訳

コース名	受講者数	修了者数
ベーシックコース	12名	12名
スタンダードコース	1名	2名
アドバンスコース	3名	2名

2) 進捗状況

（令和6年度開講期間 2024年9月17日～2025年3月21日）

9月	開講式 e-learning・講義開始（全コース） 令和7年度OJTに向けての受入調査を実施
10月	OJT開始（5か月間/アドバンスコース、3日間/スタンダードコース）
11月	キックオフ講演会開催
12月	2025年度受講生募集開始
1月	シミュレーション演習実施（ベーシックコース） 施設見学実習（ドクターヘリ拠点地見学：済生会滋賀県病院）（全コース）
2月	施設見学実習（本学附属病院手術室、ICU、PICU、EICU）（全コース） 「災害看護（DMAT）の技術演習実施（アドバンスコース・スタンダードコース） 三次救急医療施設実習指導者ミーティング 担当者連絡会議
3月	評価委員会、成果発表会 閉講式

3) 成果報告

(1) 教育プログラム内容

医療安全 (選択)	教育目標	医療内容の複雑化、高度化、社会構造の変化、国際化などにより、医療現場ではさまざまなリスクが発生している。クリティカルケアの質保証することの大切さを認識し、医療安全の症例を通して理解する。		
	指導方法	eラーニングによる自己学習。履修状況を講義確認テストの結果をもとに確認を行い、指導する。		
	授業内容	1	組織と医療安全	オンデマンド
		2	個人と医療安全	
3		患者・家族と医療安全		
医療倫理 (選択)	教育目標	医療内容の複雑化、高度化、社会構造の変化、国際化などにより、医療現場ではさまざまな倫理的問題に直面する。クリティカルケアの質保証することの大切さをふまえ、医療倫理について考える。		
	指導方法	eラーニングによる自己学習の履修状況を講義確認テストの結果をもとに確認を行い、指導する。		
	授業内容	1	医療倫理・生命倫理の原則	オンデマンド
		2	患者の権利・医療安全	オンデマンド
3		患者への説明と意思決定支援の理論	オンデマンド	
臨床推論 (必修)	教育目標	患者が訴える症候から疾患群を想起し、何が最も疑わしいかについて臨床推論を行う。疾病を病因や病態からとらえるのではなく、患者の示す様々な訴えや診察所見から疾病を定義・分類し、主要な症候から疾患の診断ができるようになるために、知識を統合し、関連する病態生理を理解し、得られる情報を用いて論理的に推論する能力を身につける。日常頻繁に使用されている臨床検査項目について、臨床的意義並びに検査値の基本的な考え方など、一連の診断プロセスと病態との関係を総合的に学習する。		
	指導方法	eラーニングによる自己学習の履修状況を講義確認テストの結果をもとに確認を行い、指導する。		
	授業内容	1	診療のプロセスⅠ「症候診断の基本的な考え方」	オンデマンド
		2	診療のプロセスⅡ「医学的診断の方法」	
		3	臨床推論「意識障害」	
		4	臨床推論「胸痛」	
		5	臨床推論「呼吸困難」	
		6	臨床推論「腹痛」	
		7	各種臨床検査の理論と演習「EKGⅠ」	
		8	各種臨床検査の理論と演習「EKGⅡ」	
9	各種臨床検査の理論と演習「血液検査」			
フィジカルアセスメント (選択)	教育目標	日常的にみられる病態を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、病態生理学的状態をエビデンスに基づき判断できる知識・技術を身につける。多様な臨床場面における重要な病態の変化や症状をいち早くアセスメントできる基本的な知識を身につける。症例に関する適切な情報収集・分析を行い、病歴や身体所見などの情報を統合してアセスメントができ、今後必要となる処置や検査の予測ができる。		
	指導方法	eラーニングによる自己学習。履修状況を講義確認テストの結果をもとに確認を行い、指導する。		
	授業内容	1	全身状態とバイタルサイン	オンデマンド
		2	胸部のフィジカルアセスメント	
		3	神経系のフィジカルアセスメント	
		4	心血管（胸部）のフィジカルアセスメント	
		5	呼吸（胸部）のフィジカルアセスメント	
6		腹部のフィジカルアセスメント		

フィジカルアセスメント 症状別 (必修)	教育目標	日常的にみられる病態を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、病態生理学的状態をエビデンスに基づき判断できる知識・技術を身につける。多様な臨床場面における重要な病態の変化や症状をいち早くアセスメントできる基本的な知識を身につける。症例に関する適切な情報収集・分析を行い、病歴や身体所見などの情報を統合してアセスメントができ、今後必要となる処置や検査の予測ができる。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習。履修状況を講義確認テストの結果をもとに確認を行い指導する。		
	授業内容	1	発熱のフィジカルアセスメント	オンデマンド
		2	呼吸障害のフィジカルアセスメントⅠ	
		3	呼吸障害のフィジカルアセスメントⅡ	
		4	ショック状態のフィジカルアセスメント	
5		意識障害のフィジカルアセスメント		
フィジカルアセスメント 小児 (必修・選択)	教育目標	日常的にみられる病態を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、病態生理学的状態をエビデンスに基づき判断できる知識・技術を身につける。小児領域の臨床場面における重要な病態の変化や症状をいち早くアセスメントできる基本的な知識を身につける。症例に関する適切な情報収集・分析を行い、病歴や身体所見などの情報を統合してアセスメントができ、今後必要となる処置や検査の予測ができる。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習は履修状況を講義確認テストの結果をもとに確認を行い、講義は看護学科の教員、実務家である専門看護師が担当する。		
	授業内容	1	小児のフィジカルアセスメントⅠ	オンデマンド
		2	小児のフィジカルアセスメントⅡ	
		3	小児のフィジカルアセスメントⅢ	
		4	小児重症患者看護	対面講義
臨床病態概論 (必修)	教育目標	循環器疾患・呼吸器疾患・消化器疾患等、プライマリ・ケアの場において遭遇することの多い主要な疾患・症状に対しての、病態生理、臨床像、治療について基本的知識を学び、臨床診断プロセスに必要な思考過程を身につける。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習。履修状況を講義確認テストの結果をもとに確認を行い、指導する。		
	授業内容	1	循環器系の疾病と病態Ⅰ	オンデマンド
		2	循環器系の疾病と病態Ⅱ	
		3	呼吸器系の疾病と病態Ⅰ	
		4	呼吸器系の疾病と病態Ⅱ	
		5	脳血管障害の疾病と病態	
		6	急性心筋梗塞の疾病と病態	
		7	敗血症の疾病と病態	
		8	熱中症の疾病と病態	

集中ケア看護論 (必修)	教育目標	①クリティカルケアの概念を理解し、重症患者への看護実践ができる。 ②重症かつ急性期にある患者の病状把握を迅速に行うことができる。 ③クリティカルケアにおける合併症予防について理解できる。 ④早期回復支援について立案、実施できる ⑤集中治療に関わる ME 機器の取り扱いとエラー対応ができる ⑥患者の早期回復支援のための他部門（ICU、救急室、NST、外来等）との連携が理解できる。		
	指導方法	実務者である集中治療部医師、認定看護師、理学療法士、臨床工学技士による講義形式にて指導する。		
	授業内容	1	重症患者管理 動脈血ガス分析の読み方・考え方	対面講義
		2	人工呼吸器管理	
		3	周術期患者管理 侵襲時の生体反応と対処	オンデマンド
		4	重症患者看護 フィジカルアセスメントから始める急性期看護	対面講義
		5	早期回復支援①リハビリテーションの役割	
		6	早期回復支援②重症患者の栄養管理	
7		重症患者の症状マネジメント セン妄予防	オンデマンド	
救急看護 (必修・選択)	教育目標	さまざまな状況において突然に生じた傷害または急激な疾病の発症や急性増悪等によって、医療を必要とする人々に対する迅速かつ適切な看護実践である救急看護についての役割について学び、重要性、必要性を再考できる。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習、救急看護を専門としている教員および、実務者である認定看護師による講義演習形式にて指導する。		
	授業内容	1	救急医療 1	オンデマンド
		2	救急医療 2	
		3	救急医療 3	
		4	(キックオフ講演会) 「重症・集中看護、救急看護における実践と教育」	対面講義
		5	救急看護の実際 「急変の予兆」の捉え方とその対応	
		6	小児救急看護 「小児の異変に気付く」	
災害看護 (必修・選択)	教育目標	国内外で災害が発生した際に医療や看護の知識・技術を提供し、ほかの専門分野と協力・連携しながら行う災害看護について学び、果たす役割について考えることができる。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習、看護学科教員および、実務者である DMAT メンバーによる講義演習形式にて指導する。		
	授業内容	1	「災害時の医療と看護（スタッフ編）」	オンデマンド
		2	DMATメンバーとして果たす看護師の役割	対面講義・演習
感染管理 (必修・選択)	教育目標	クリティカルケアにおける感染予防および感染症発生時の拡大防止、また、病原微生物に曝露した際に発症を予防するための対策について、その概要を学び基本的知識を修得する。また、感染症に関わる倫理的課題、患者・家族、医療従事者のメンタルヘルスについて学習し、その課題について考察する。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習、看護学科教員および、実務者である感染管理認定看護師による講義演習形式にて指導する。		
	授業内容	1	「感染対策の概要」	オンデマンド
		2	感染管理 各論 「ICUの患者のデバイス管理 他」	対面講義

シミュレーション演習 (必修)	教育目標	クリティカルケアの必要がある生命の危機的状態（クリティカル期）にある重症患者に対してER、ICU、外科系病棟で行われるケアについてシミュレーターを使用して学ぶ。ニーズに合った医療を提供できる力（実践力）を模擬的な状況の中で、学習者としての個人やチームで医療を経験し、最善の医療を実践するにはどのような専門的な知識・技術・態度を備えていなければならないのかを再考する。		
	指導方法	状況設定された高機能シミュレーターに対しクリティカルケアを実施し、適切な判断とそれに基づく行動ができたかどうかをメンバー内でフィードバックを行う。その内容を評価し指導する。個人のスキルにおいてはチェック表にて評価する。		
	授業内容	1	人工呼吸器管理	対面演習
		2	気管挿管介助と気道管理（口腔ケアを含む）	
		3	急変対応シミュレーション	
		4	急変対応とアセスメント	
5		災害看護 演習		
施設見学実習（選択）	教育目標	急変・救急搬送・手術後などのさまざまな理由から生命の危機に直面している状態の患者においては状態のモニタリングや綿密なケアなどのクリティカルケアが非常に重要となる。Drヘリで搬送される実際、手術中の管理の実際、集中治療室での実際を見学することで生命を維持するためのケアの必要性や重要性を再考することができる。		
	指導方法	実習における個々の目標に対して、達成できる様に場面を調整し、指導する。		
	授業内容	1	ドクターヘリ拠点地見学	済生会滋賀県病院
		2	手術室の見学	附属病院
		3	ICUの見学	
		4	PICU の見学	
		5	救急室・EICU の見学	
施設実習（OJT）（必須）	教育目標	高度急性期病院における集中治療において、クリティカルな状態にある患者の病態把握、早期回復支援の実際について学ぶ。また、大手術後や侵襲の大きな治療を受ける患者の生体反応とそれに応じた対応について学ぶ。		
	指導方法	次の①～⑥のいずれかが経験できるよう調整をはかり、個々の目標達成において、自立して看護実践が行える様に指導する。 ①大手術後の看護②侵襲的治療を受ける患者の看護③人工呼吸器離脱への支援（SBT） ④鎮静剤の調整⑤人工呼吸器装着中のリハビリテーション⑥多職種カンファレンス		
	授業内容	実習期間	スタンダード：10月から2月のうちの3日間 アドバンス：10月から2月（800時間）	附属病院 ICU、 EICU

*シミュレーション演習の実際



災害看護 机上演習



早期回復支援②重症患者へのリハビリテーション



人工呼吸管理演習



気道管理演習

*施設見学実習（ドクターヘリ拠点地見学）の実際



救命救急センター長による講義



ドクターヘリ帰還後の見学

(2) 形成的評価

科目名【救急看護】対面講義・キックオフ講演会

日時：2024年11月1日（金）17:30-19:00

講師：江口秀子先生（鈴鹿医療科学大学看護学部看護学科成人看護学教授）

会場：京都府立医科大学臨床講義棟南臨床講義室

テーマ：「重症・集中看護、救急看護における実践と教育」

受講者 36 名（アンケート回答者 29 名/有効回答率 80%）

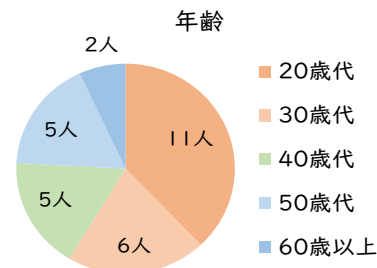
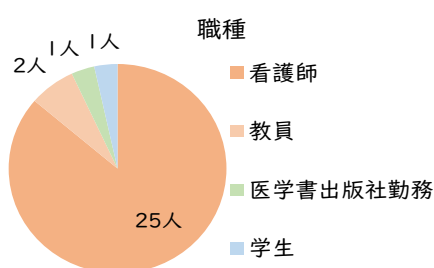
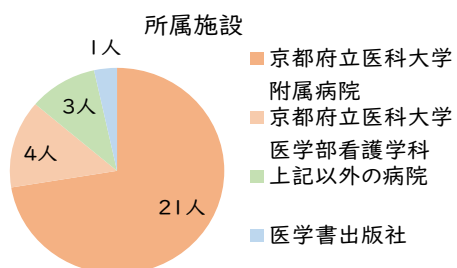
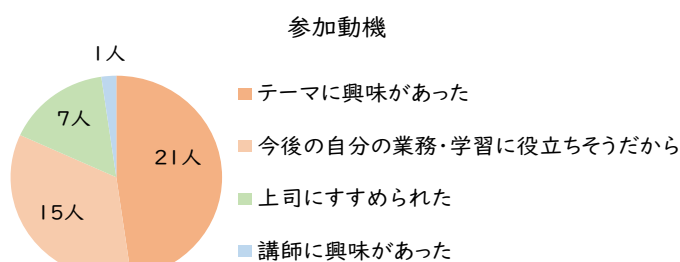
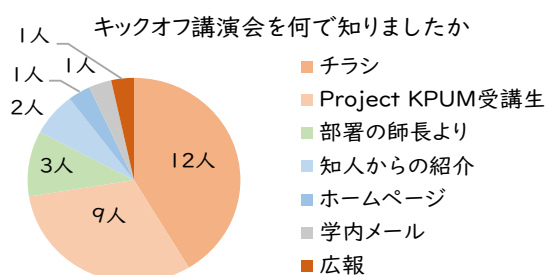


会場

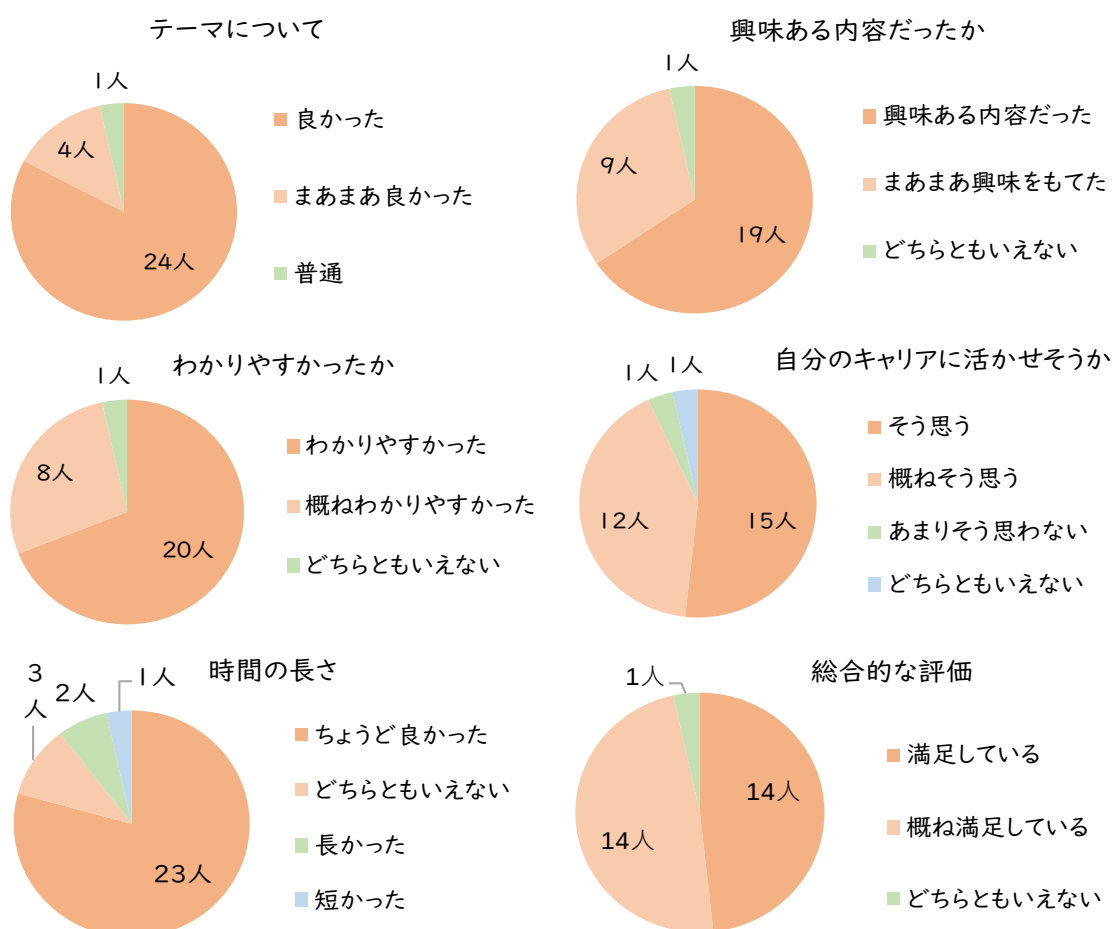


講演会ちらし

【受講者について】



【講演について】



自由記述より：

- ・ご講義ありがとうございました。今後の看護へ繋げていけるよう、本日の講演を思い出し行動して行こうと思いました。
- ・ICU勤務になって業務に当たる中で忘れかけていたクリティカルケアナースとしての役割を再確認する事が出来ました。
- ・重症・集中看護、救急看護の実践と教育について、その変遷や課題について良く理解できました。事例を交えながらご説明下さりとても分かりやすかったです。教員として、救急医療に興味を持つ学生と接する際の参考にさせて頂きたいと思います。ありがとうございました。
- ・PICSについて理解でき患者の日常生活にもあわせてケア実践をしていく必要があると思いました。
- ・貴重なお話ありがとうございました
- ・経験の浅いスタッフや新人スタッフへの指導時の視点を、もっと聞きたかったです。
- ・キックオフにふさわしい講師の先生でした。今後の教育の方向性を考える上で示唆に富んだ内容だと思いました。

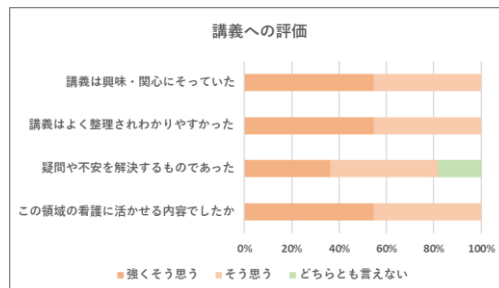
科目名【集中ケア看護論】対面講義

日 時：2024 年 8 月 29 日（木）17:00~18:00

講 師：小尾口邦彦先生（京都府立医科大学附属病院集中治療部部長）

テーマ：「重症患者管理 動脈血ガス分析の読み方・考え方」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、その他聴講者 4 名



自由記述より：

血ガスに関して難しいイメージで苦手意識があったが、pH と乳酸だけでもまずは意識して確認したい。
講義がとても分かりやすかったので、他の内容や他の検査データ値についても教えて頂きたいと思った。

科目名【集中ケア看護論】対面講義

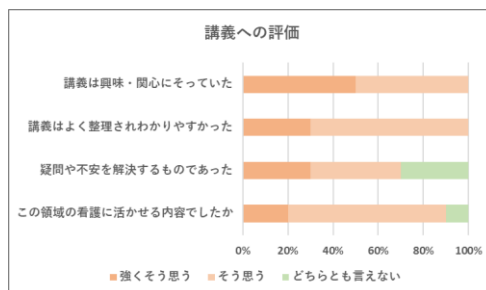
日 時：2024 年 9 月 10 日（火）17:00~18:00

講 師：畑中祐也先生

（京都府立医科大学附属病院臨床工学部兼医療技術部臨床工学科副部長臨床工学技士長）

テーマ：「人工呼吸器管理」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、その他聴講者 13 名



自由記述より：

- ・波形の例を用いながら説明していただき非常に分かりやすかった。
- ・人工呼吸器を使用する患者を最近受け持ったので自己学習したが、看護と上手く繋がられていなかった。
具体的な数値や波形をもとにした講義のため、実際の経験と結びつけられ学びが深まった。

科目名【集中ケア看護論】対面講義

日 時：2024 年 11 月 12 日（火）17:00~18:00

講 師：竹中千恵先生（京都府立医科大学附属病院看護師長・クリティカルケア認定看護師）

テーマ：「重症患者看護 フィジカルアセスメントから始める急性期看護」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、その他聴講者 13 名

自由記述より：

呼吸回数が大事とよく耳にするが、なぜ大事なのかを根拠を元に理解できた。急変時に少しでも動ける、気づけるように臨床でも活かしていきたい。

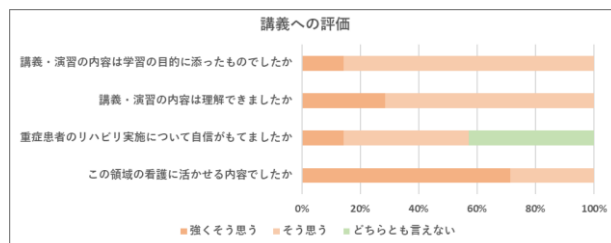
科目名【集中ケア看護論】対面講義・演習

日 時：2025 年 1 月 23 日（木）17:00~18:00

講 師：山端志保先生（京都府立医科大学附属病院理学療法士）

テーマ：「早期回復支援②リハビリテーションの役割」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、その他聴講者 9 名



自由記述より：

- ・開胸術後のリハビリなどで活用できそう。
- ・日常の疑問が解消される内容だった。
- ・とてもわかりやすく、質問にも答えていただけたので、よく理解できた。

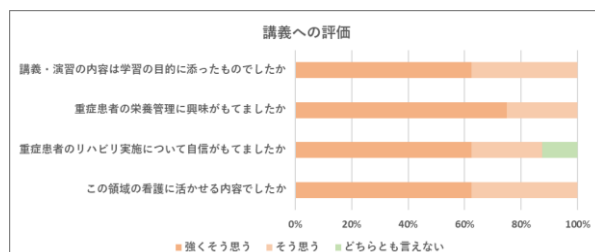
科目名【集中ケア看護論】対面講義

日 時：2025 年 2 月 3 日（月）17:00~18:00

講 師：笹井由起子先生（京都府立医科大学附属病院管理栄養士）

テーマ：「早期回復支援③重症患者の栄養管理」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、その他聴講者 4 名



自由記述より：

- ・経腸栄養のカロリー量に悩んでいたのもとても勉強になった。
- ・GLIMやMUSTスコアを用いて患者の低栄養状態を確認し、必要カロリー量を算出する事を学んだ。
- ・術後の嚥下障害などで経腸栄養を継続する患者も多いがカロリーや栄養素などについて十分理解出来ていなかったものでMUSTなどを活用できるようにしていきたい。

科目名【集中ケア看護論】オンデマンド

日 時：2024 年 8 月配信（1 か月）

講 師：山内薫先生（京都府立医科大学附属病院手術看護認定看護師、特定行為研修修了看護師）

テーマ：「手術侵襲が及ぼす生体への影響について」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、ベーシックコース 12 名、その他聴講者 71 名

自由記述より：

実際に手術を実施するのは医師でも、手術侵襲をなるべく小さくするため、手術進行を円滑にすすめるという役目は、看護師にできることだと思った。

科目名【集中ケア看護論】オンデマンド

日 時：2025 年 1 月配信（1 か月）

講 師：安里智洋先生（京都府立医科大学附属病院看護師長、認知症看護認定看護師）

テーマ：「重症患者の症状マネジメント セン妄予防」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、ベーシックコース 12 名、その他聴講者 42 名

自由記述より：

- ・せん妄について詳しく説明され、何がせん妄を引き起こすのか、看護としてできることは何か分かりやすく、臨床に活かしやすい講義だった。
- ・具体的な介入方法、使用薬剤の特徴など、すぐにでも臨床で活かせる内容だった。
- ・認知症とせん妄の違いや薬剤の使用方法をわかりやすく説明して頂いて勉強になった。

科目名【救急看護】対面講義

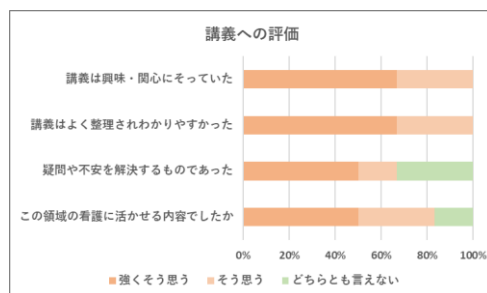
日 時：2024 年 6 月 14 日（金）17:00~18:00

講 師：杉美紀先生

（京都府立医科大学附属病院副看護師長、クリティカルケア認定看護師、特定行為看護師）

テーマ：「救急看護の実際 『急変の予兆』の捉え方とその対応」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、その他聴講者 4 名



自由記述より：

- ・呼吸数測定の実態から、急変時のサインとして呼吸数の変化が大切な指標だと改めて分かった。
- ・急変時、緊張や焦りから普段通りに動けないので、普段からいつでも対応できるようシミュレーションが必要だと感じた。

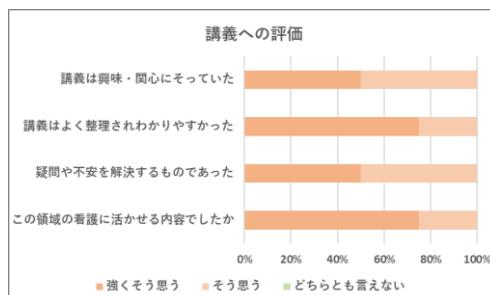
科目名【救急看護】対面講義

日 時：2024 年 8 月 7 日（水）17:00~18:00

講 師：辻尾有利子先生（京都府立医科大学附属病院看護師長、急性・重症患者看護専門看護師）

テーマ：「小児救急看護『小児の異変に気付く』」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、その他聴講者 13 名



自由記述より：

- ・PICU に入室している患者さんの状態把握に必要なことばかりで、とても勉強になった。今後に活かしていきたい。
- ・日々の看護実践の場面で度々おこる事例に合わせたものでイメージしやすく分かりやすかった。

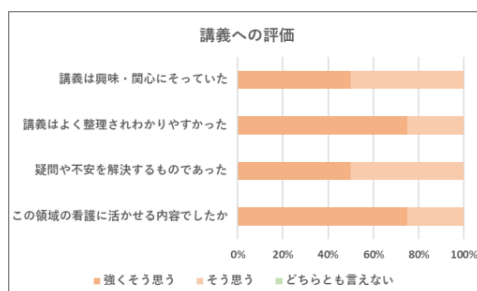
科目名【感染管理】対面講義

日 時：2024 年 11 月 29 日（金）17:00~18:00

講 師：菊地主介先生（京都府立医科大学附属病院感染管理認定看護師）

テーマ：「早期回復支援①～感染予防からはじまる重症患者看護～」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、その他聴講者 2 名



自由記述より：

- ・凄くわかりやすかった。
- ・実際に感染面での正しいルート交換(病棟ルールでない)間隔等を知れて良かった。

科目名【シミュレーション演習】演習

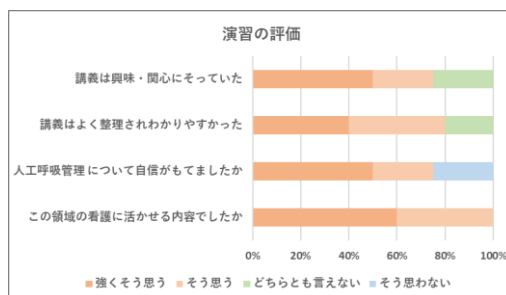
日 時：2024 年 12 月 12 日（木）17:00~18:00

講 師：畑中祐也先生

（京都府立医科大学附属病院臨床工学部兼医療技術部臨床工学科副部長臨床工学技士長）

テーマ：「人工呼吸器管理」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、ベーシックコース 12 名



自由記述より：

- ・重症患者さんへの対応を的確に行うための how to を学ぶことができた。
- ・グラフィックの正常と異常を見比べる事ができ、わかりやすく今後のアセスメントに活かせると思った。
- ・波形を具体的に見れてなかったのでも勉強になった。
- ・実際に呼吸器の設定ごとに体験して、患者がどうしんどいのか、どうすれば楽にできるのかを実感できたので、臨床でもその経験を活かしてフィジカルアセスメントをしたいと思った。
- ・病棟で先輩からの指導内容に補足のような形で、新たに知った部分があった。

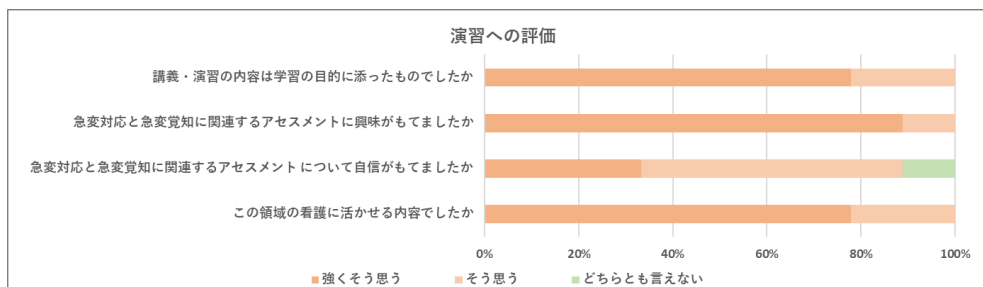
科目名【シミュレーション演習】演習

日 時：2025 年 1 月 17 日（金）17:00~18:00

講 師：山田親代先生（京都府立医科大学医学部看護学科学内講師、集中ケア認定看護師）

テーマ：「急変対応とアセスメント」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、ベーシックコース 12 名



自由記述より：

- ・様々な事例をみて、あらゆる可能性を考える機会となった。
- ・自身の診療科以外の疾患でのシチュエーションを想定しての演習で普段できない経験ができた。
- ・疾患に基づいたアセスメントができ、全身状態を把握することで見えてくる予測、可能性などを広げていくことを学んだ。
- ・実際の急変対応時は視野や思考が狭くなる傾向にあり、今回の演習も同じであった。周りのスタッフとも協力して、アセスメントや対応をおこなうことの重要性を改めて実感した。
- ・脳神経外科の病棟では心不全の患者も多いため心不全の患者が急変した時にどのような原因でどうなったのか考えながら急変対応出来て良かった。何かあった時に行かせるように頑張りたい。

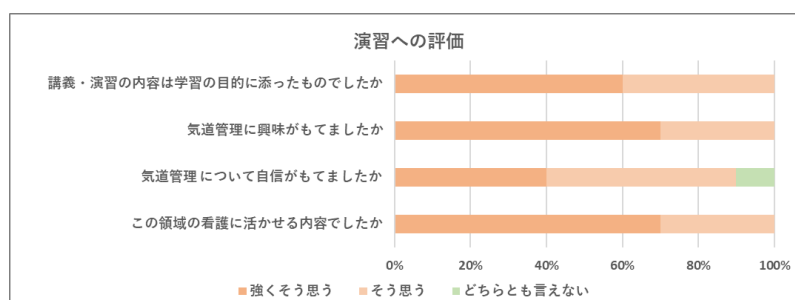
科目名【シミュレーション演習】演習

日 時：2025 年 2 月 14 日（金）17:00~18:00

講 師：濱崎一美先生（京都府立医科大学附属病院看護師長、集中ケア認定看護師）

テーマ：「気管挿管介助と気道管理（口腔ケアを含む）」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、ベーシックコース 12 名



自由記述より：

- ・冷静に手順を教えてもらえた。
- ・実際にやることで、どのように介助したらやりやすいのか実感することができた。
- ・挿管管理について講義を受けたことはあるが、今回挿管管理に加え、気道管理の必要性、重要性、内容まで細かく学ばせてもらう機会となった。
- ・介助だけでなく、実際に挿管できて手技の流れや実際の手技中は手技に集中するため、周りの人が患者の状況を観察しておく必要があると実感した。

科目名【シミュレーション演習】演習

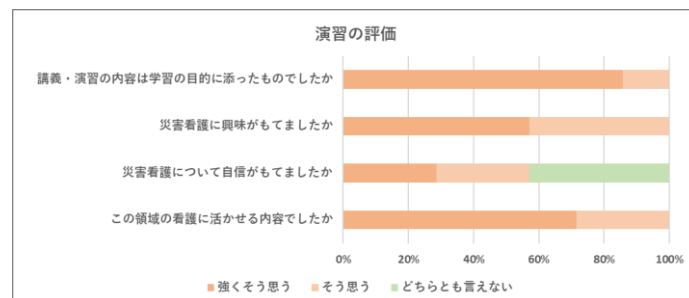
日 時：2025 年 2 月 3 日（月）17:00~18:30

講 師：鴨島尚美先生

（京都府災害医療コーディネーター DMAT インストラクター）

テーマ：「災害看護～地震発生時、私たち病棟看護師はどう動く～」

受講者：アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名、ベーシックコース 7 名、その他聴講者 5 名



自由記述より：

- ・ 実戦に則した内容だった。普段からやっていない事は出来ないと、心理的なハードルを下げて貰いつつ、普段やっている事を最大限に生かせるように学習支援していただいた。
- ・ 実際の演習を通して、リーダーとして病棟の患者を避難させることはもちろんだが、メンバーのフォローや必要な情報収集なども担えるようにならないといけないと感じた。近く発生するであろう災害に備えて、自部署内でも避難訓練等検討していきたいと思う。
- ・ とても興味のある講座で、今回の講義の先、新規患者の受け入れや外来への応援なども学べる機会があれば是非参加したい。

科目名【施設見学実習】済生会滋賀県病院

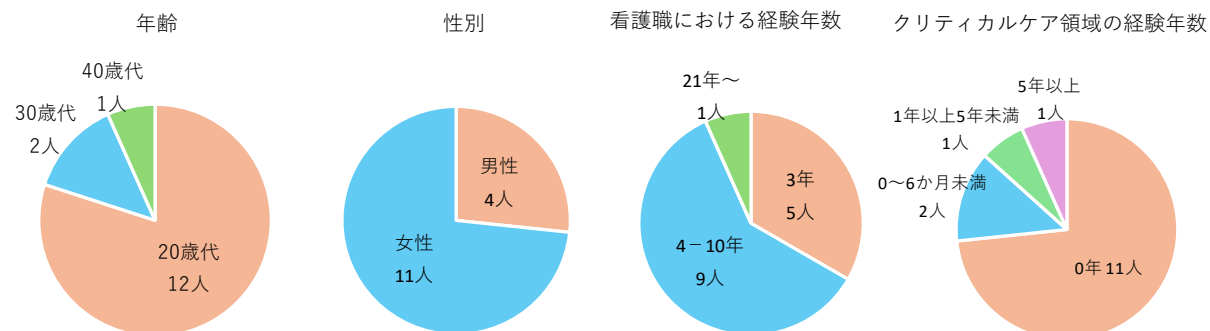
日 時：2025 年 1 月 25 日（土）9:00-12:00

講 師：越後整先生（済生会滋賀県病院救命救急センター長、救急集中治療科主任部長）

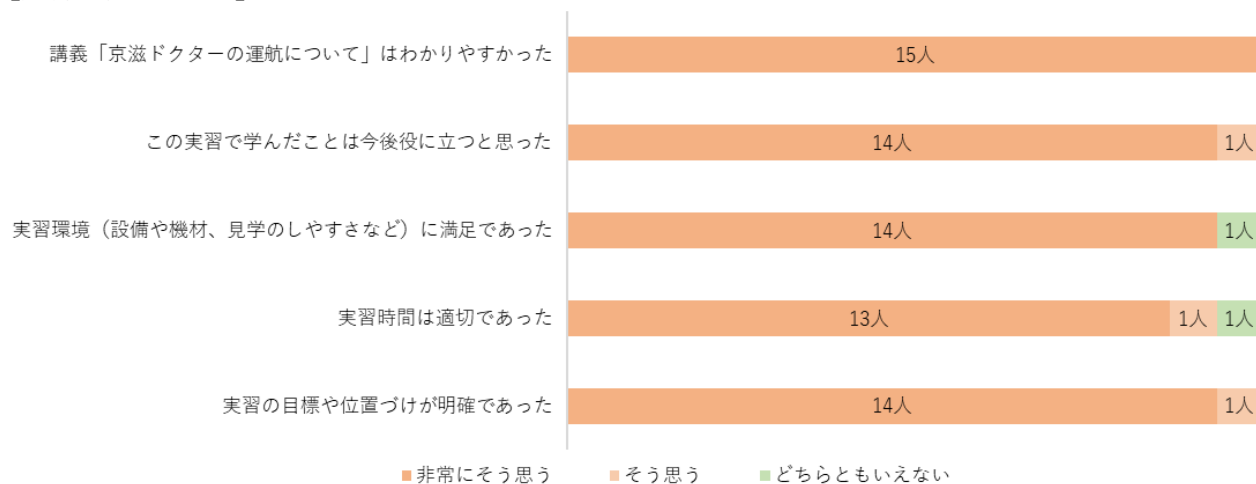
テーマ：「救急医療におけるドクターヘリの役割や運用の実際」

受講者： 15 名

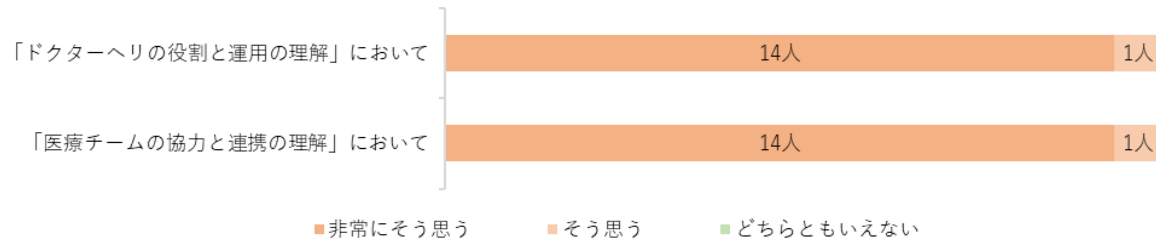
【受講生について】



【実習内容について】



【実習の目標達成について】



【実習満足度】



自由記述より：

- ・現場に行って運ぶまでがドクターヘリの役割と思っていたが講義を受けて患者搬送が二次的な役割であることが印象に残っている。
- ・普段の環境や慣れたスタッフのいる環境でできること（慣れない環境・スタッフの力でできるためには）コミュニケーション力が大事。
- ・へき地でのドクターヘリは必要であり京都でもドクターヘリは必要だと感じた。
- ・人手、物品、時間が限られる中でのコミュニケーション、人間関係、連携が必要だと分かった。

Ⅲ. 事業評価総括

1. 本事業の実施体制

本事業の開始にあたり、運営体制として事業実施体制を構築した（5 頁参照）。京都府立医科大学看護実践キャリア開発センターを中心に、京都府立医科大学附属病院看護部、京都府立医科大学医学部看護学科と連携し、教育プログラムの作成・実施を進めた。令和 6 年度は附属病院看護師を対象とする教育プログラムであったため、内容のほとんどが附属病院内で完結するものであったが、キックオフ講演会における外部講師の招聘や、ドクターヘリ拠点地見学を実施するなど、病院外で学ぶ機会も設けることができた。令和 7 年度以降の教育プログラムには 4 週間の OJT が含まれるため、京都府内の高度救命救急センター 2 か所と救命救急センター 6 か所の看護部長・教育担当副部長との打ち合わせを重ね、安全で高い学習効果を得るための実習体制について検討をした。本事業の概要については、京都府健康福祉部医療課、京都府看護協会、京都府医学振興会担当者にも説明に赴き、連携・協力をいただく旨了承を得、万全の体制で事業を開始させることができたと考える。

2. 事業の実施内容

令和 6 年度は、附属病院で既に計画立案中であったクリティカルケアナース養成プロジェクトと一部を共有する形で実施した。e-learning を中心とするベーシックコース、e-learning と講義・演習、1 か月の OJT を行うスタンダードコース、e-learning と講義・演習、5 か月の OJT を行うアドバンスコースである。教育内容は、【共通科目】【専門科目】【演習】【実習】の 4 つの枠組みと選択科目を含む 14 科目にて構成した。e-learning には、特定行為研修にて視聴している全日協 SQUE を用いて、より高度なアセスメント能力・臨床推論を習得できるように計画した。講義と演習では、附属病院における認定看護師、専門看護師、特定行為看護師によるエビデンスに基づく最新のクリティカルケア技術を学ぶ機会を設けた。e-learning にて知識を習得した後に講義・演習を設定したため、段階を踏んだ学習ができたと考える。

令和 6 年 4 月より三次救急医療機関となった附属病院では、重症患者に対応できる看護師の養成が急務であったが、院内用のクリティカルケアナース養成プロジェクトと本事業とが共に進行することで、附属病院看護師の重症・救急看護に関する能力向上に寄与できたと考える。病院全体が混乱し、看護師にとっても非常に多忙な中でのプログラム参加であったが、受講者は大変熱心に講義・演習、OJT に参加していた。認定看護師や専門看護師など、スペシャリストから直接教えを乞い、日々の看護実践に直結する学びができたこと、スキルラボで高機能シミュレータを用いた演習を実施したこと、ドクターヘリ拠点地見学や長期間にわたる OJT を実施したことで、クリティカルケアへの関心が一層高まり、今後の看護師としてのキャリアパス形成に影響をもたらすことが期待できる。

3. 事業の成果評価

当初、令和 6 年度の受入目標人数を 15 名と設定していた。附属病院のクリティカルケア看護師育成プログラムと一部を共有したプログラムであったため、アドバンスコース 2 名、スタンダードコース 2 名は決定しており、新たに本事業開催にあたり 12 名の参加者を募り、計 16 名でのスタートとなった。講義や演習への参加はほぼ完遂できたが、e-learning の視聴が途中で終わっている受講生が散逸していた。計画的に視聴を促す声かけを実施したが、勤務の合間に行う e-learning 継続の困難さがみられた。

形成的評価では、演習後のアンケートの回収率が低い項目があり、受講生の自己評価を正しく反映させているとはいえない状況にあるが、回答者は概ね「理解が深まった」「看護に活かせる内容であっ

た」と評価していた。自由記述においても、「普段の臨床での実践でわからなかったことを解決できた」「臨床でのイメージがしやすくわかりやすかった」等高い評価が得られていた。

令和7年度は技術チェックリストを用いた評価を実施する計画を立案している。理解度や目標到達度の評価に加え、具体的なクリティカルケア技術の向上を評価し、日本集中治療医学会でのクリニカルラダーレベル到達度を評価する予定である。量的・質的に当教育プログラムの効果を測定し、得られた評価を次のプログラムに反映させ、京都府の重症患者に対応できる看護師養成に貢献したい。

4. 今後の課題

本事業の課題は、受講生の確保である。附属病院のみならず、地域の医療機関は慢性的に人員不足で外部に看護師を研修に出す余裕のないところが多い。勤務を続けながらプログラムを受講できるよう、オンデマンド科目の設定や、講義・演習の時間帯の工夫を行ったが、令和7年度前期受講希望者は5名となった。その理由には、医療機関の人員不足の他に、広報の不足や時期の問題（4月開講は年度末の退職や異動の影響を受け研修に出ることが難しい）がある。令和7年度後期に向けては、新聞等の媒体を使って幅広く本事業を周知し、SNS（インスタグラム等）を活用した広報活動を展開していく必要がある。また、京都府看護協会や関係機関にもちらし配布の協力を依頼していく。新型コロナウイルス感染症パンデミックの記憶がまだ新しい今、感染症対応や自然災害時の支援、高齢者の増加により変化する急性期医療のニーズに対応できるよう、学びへの意欲をもつ看護師は多く存在すると考えられる。生涯学習の一環として本事業を選択してもらえよう、周知していく必要がある。

令和7年度は、初めて京都府内の看護師を受講生として受け入れ、4週間という長期間のOJTを実施する。受講生・キャリアセンター・OJT協力病院が密に連携し、クリティカルケアナースとして確実にレベルアップできるよう、支援をしていきたい。本事業は、修了後にクリティカルケアナースのネットワークづくりを目標の一つと挙げている。半年毎のプログラムを修了した看護師が、修了後も自施設で後輩看護師の教育に携わり、自身の研鑽を継続できるよう、情報交換会や研修会を開催していくことを目指している。長期的視野をもち、重症患者に対応できる看護師養成プログラムを構築する必要がある。

本成果報告書は、文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業（社会的な要請に対応できる看護師の養成）」として京都府公立大学法人京都府立医科大学が実施した令和6年度「Project KPUM-重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト」の成果をとりまとめたものです。

令和7年3月発行

「Project KPUM-重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト」事務局

京都府立医科大学 看護実践キャリア開発センター

〒602-8566 京都府京都市上京区河原町通広小路上の梶井町 465
TEL/FAX : 075 - 212-5422 e-mail : careinfo@koto.kpu-m.ac.jp

